2020年度水環境文化賞を受賞して

特定非営利活動法人日本環境監視協会　理事長　山　﨑　惟　義
理　事　山　本　千　裕

この度は日本水環境学会の「水環境文化賞」をいただくことになり誠に光栄に存じます。

この受賞につきましては，日本水環境学会の皆様，とくにご審査いただいた選考委員の方々，さらにご推挙いただいた安井英斉先生はじめ九州沖縄支部の皆様に，心よりお礼申しあげます。

長年「水環境」研究などに携わる中で，常々「環境か開発か」に代表される対立関係を強く感じていました。九州でも諫早干拓に関して，「漁業者」「農業者」「行政」の間で深刻な対立を生んでいます。

この対立解消のための「conflict management コンフリクトマネジメント（以降 CM と称す）」を私共の NPO 法人の目的の一つにしました。

CM は社会学的，経営学的用語として使用されていますが，環境分野では conflict が先鋭化している場合，適切で科学的かつ中立的な情報が欠如していることが多いように感じています。

また，NPO 法人としても実際にやれることは限られています。そこで，上記の情報を取得・発信するための「環境監視」を NPO 法人の名前に入れ，活動してまいりました。

主な活動内容は「博多湾アイランドシティー造成の環境監視」や「博多湾の水質調査」などによる情報収集と適切な情報発信のための GIS による調査結果の可視化（図 1）ならびに博多湾環境に関する議論のプラットホームの提供，さらに環境監視においては底質の硫化水素が底生生物に重大な影響を及ぼすという観点から簡易に現場で測定する手法の開発などです。

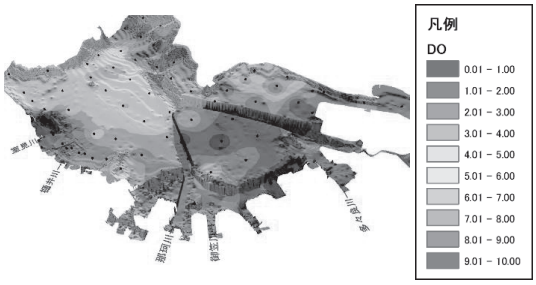

図 1　GIS で展開した博多湾低層の 3D DO 分布図
（平成 28 年 7 月 20 日）

社会活動として，「博多湾再生市民フォーラム」や「博多湾わかめプロジェクト」立ち上げの一端を担ってまいりました。これらの活動では環境監視によって得られた成果を市民に提供し，市民の環境活動への参画を促すことを目的としています。

前述の硫化水素測定は干潟や閉鎖性水域の環境評価の項目として堆積物（底泥）中に含まれる溶存硫化物に着目してきました。しかし堆積物に含まれる溶存硫化物の分析は様々な方法が考案されていますが，いずれも特別な技術や装置等を要するなど一般的には測定困難な項目でした。当 NPO 法人では堆積物間隙水を空気中の酸素に触れさせることなく採取する特殊ピペットを発明（特許第 6467577 号）しました（図 2）。これを用いて採取した間隙水を市販の簡易分析パックにて分析することにより特別な技術を必要とせず，誰にでも簡単にこの溶存硫化物を測定する手法の開発に成功しました。当協会では閉鎖性水域における富栄養化による環境悪化状態や各種対策事業による改善効果を現場で判断する有効な項目として活用を行っています（図 3）。

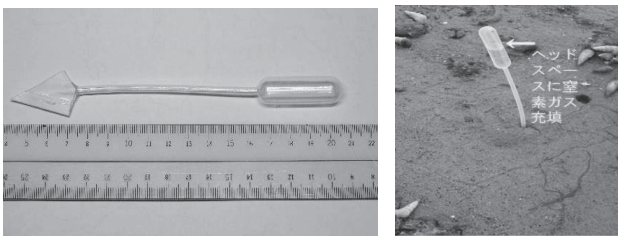

図 2　間隙水採取ピペット

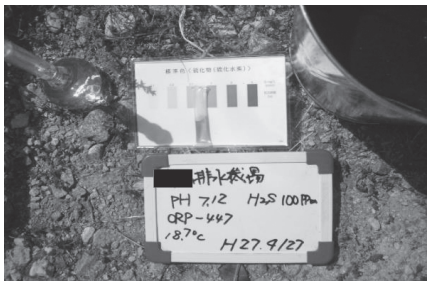

図 3　現場での測定例
（無酸素水にて定量希釈し 100 ppm の測定結果を得た）